

西田幾多郎博士作品を吟ずる 第二十回全国吟詠大会からの指定吟題

① 秋夜読書

独り坐せば 寥々として『秋気涼し』
案頭『巻を披けば 感方に長し』
隙風来り襲つて『燈光乱れ』
明月輝々として 草堂を照らす』

② 秋郊聞笛

秋郊の風景『滿眸晴れたり』
寂寞として『遙かに聞く 玉笛の声』
尤も憶う 今宵『感慨多しと』
他郷『忽ち起こす 故郷の情を』

③ 春園歩月

地上の清光『霜を踏むが如し』
夜遊ぶ『恰も仙郷に到るに似たり』
好きかな 春月『花上に輝けること』
一苑『東風に万樹香し』

④ 秋夜故郷を思う

夜風は『颯々として涼し』
明月は『白きこと霜の如し』
独り坐す『書窓の下』
頭を『低れて故郷を思う』

⑤ 無題

歲月『流水の如く』
又『春色新たなるに逢う』
寒梅『伴侶と成す』
天地『一人』

⑥ 湘南落日

青山『海に連なつて尽く』
潮水『天に接して流る』
落日『煙雲の外 只』富岳の浮ぶを見る』

⑦ 白砂青松

砂白く『松青々 海青く』波白々』
古城『山下の路 日々』往来と為す』

⑧ 鎌倉雑詠

故人『半ば鬼と為る 生者』果たして如何』
昔日『同遊の地 花に對して』感慨多し』

⑨ 絶句

数箇の春鶯『柳辺に鳴く』
数行の『過雁 蒼天を渡る』
窓に含む』東岳の好春景』
門に泊す』前川万里の船』

⑩ 愛宕山

愛宕山『入る日の如くあかあかと』
燃し尽さん残れる命』
(くりかえし)

⑪ 吾死なば

吾死なば『故郷の山に埋れて』
昔語りし友を夢みむ』
(くりかえし)

⑫ 人は人

人は人『吾は吾なりとにかくに』
吾行く道を吾は行くなり』
(くりかえし)

⑬ わが心

わが心『深き底あり 喜も』
憂の波もどかと思ふ』
(くりかえし)